

令和4年7月14日 総務文教委員会 議事録
10時38分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 児玉 朋也

副委員長 小田上 尚典

委員 末広 天佑、小中 真樹雄、中川 智之、西村 一啓、網谷 芳孝、
山崎 年一

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 なし

○児玉委員長 それでは、定足数に達しておりますので、ただいまから総務文教委員会を開会いたします。

開会に当たり、市長に御挨拶をお願いしたいと思います。

市長。

○入山市長 総務文教委員会開催ありがとうございます。よろしく御審議お願い申し上げます。

○児玉委員長 議事に入る前に、改めて委員と執行部の皆さんにお願いを申し上げます。

委員会での質疑につきまして、会議規則第56条の規定では3回までとなっておりますので、御協力をお願いを申し上げますとともに、再質問の必要がないよう、簡明なる御答弁をあわせてお願い申し上げます。

執行部におかれましては、答弁をされる場合は挙手をしていただき、委員長から指名を受けてください。答弁をするときは、課名と職名を名乗ってから答弁していただきたいと思っております。

発言される際には、マイクのスイッチを入れ、マイクに近づいて発言をしていただきたいと思います。

それでは、議事日程にしたがって進めてさせていただきます。

日程第1、議案第34号令和4年度大竹市一般会計補正予算(第4号)を議題といたします。

本件につきましては、本会議場で提案理由の説明がございましたが、執行部において補足説明があればお願いいたします。

総務部長。

○佐伯総務部長 補足説明はありませんので、よろしく願いいたします。

○児玉委員長 それでは、これより本件に対する質疑に入ります。

本件に関して質疑の通告を受けておりますので、発言を許可いたします。

質疑はありませんか。

末広委員。

○末広委員 委員の末広です。初めての質問をさせていただきます。

この議案についてなんですが、ちょっとまとめた質問になるんですけども、まず、商工振興事業のクーポンなんですけども、今回3回目となると思うんですが、1回目の利用率は94.5%と非常に高い数字をお聞きしております。2回目のクーポンの利用率や利用可能な事業者数に変化がありましたら教えていただければと思います。

回数を重ねてきまして、クーポン配付等でトラブルとかがあったら教えていただければと思います。これを今回織り込んでいっているようなものでしたらいいと思うんですけども。あと、配付対象者は今回いつの時点での判断で何人になるんでしょうか。

次は、学校給食費支援事業についてです。

援助する金額の根拠を教えてください。期間も教えていただければと思います。今、このコロナ禍だったり原油の値上がり等で原材料の値上がりがあると思うんですが、給食費そのものの値上げの予定はあるんでしょうか。または、検討はされてるんでしょうか。それを織り込んだ上での援助になるのかどうかを教えていただければと思います。よろしくお願いたします。

○児玉委員長 前田産業振興課長。

○前田産業振興課長併任農業委員会事務局長 それでは、末広委員のクーポン券事業についてお答えいたします。

委員がおっしゃられたとおり、1回目の利用率が94.5%でございました。2回目につきましては95.9%の利用率になっております。事業者数ですけども、1回目が281の事業者、2回目が290の事業者の登録がございました。

続きまして、クーポン券のトラブルの有無ということでございますけども、若干のトラブルはございます。クーポン券に関しては、これまで郵便局の特定記録郵便という形で送付をしておりますけども、クーポン券が届かないなどの場合は、御家族が保管していることもありますので、まず、家庭内を探してくださいというふうをお願いをしてきました。盗難にあった場合は警察に届けるようお願いをしてきました。クーポン券を受け取った後に紛失した場合は、これはやはり自己責任になりますけども、盗難や郵便が届いてないということで、どうしても見つからないという場合のみ再発行の手続はしてきております。

続いて、クーポン券の利用に関しても、若干ではあります但苦情などもございました。例えば、一部の商品でクーポン券が使えないとか、クーポン券を利用した残りをキャッシュレスで支払えなかったなど、事業者の都合でできないこともございました。ただ、これまでクーポン券事業を2回ほど実施しておりますが、事業の実施に関して大きなトラブルはなかったと思っております。

続きまして、第3回の配付対象の人数、判断基準ということでございますけども、現在考えておりますのが、令和4年7月末現在で大竹市に住所を有する方に配付を考えております。6月末現在、7月1日現在ですけども、住民基本台帳人口が2万6,191人ですので、同等人数を見込んでおります。

以上になります。

○児玉委員長 総務学事課長。

○貞盛総務学事課長 総務学事課長の貞盛です。よろしくお願いたします。

学校給食費支援事業についてです。

まず、支援する金額の根拠についてですが、今回半額支援ということで計画を立てておりますが、その半額支援の具体的な根拠はございません。さまざまな支援額、例えば値上げ分の支援であるとか主食費の支援であるとか、あるいは牛乳費の支援などを検討した結果、物価高騰及び子育て支援策として学校給食費について、県内市町の中でもトップクラスに手厚い子育て世帯への経済的負担の軽減策を行いたいと考えて半額支援としたものです。

次に、期間について御説明いたします。

10月から3月末までの予算を計上しているものです。

○**児玉委員長** 給食センター課長。

○**重安総務学事課副参事兼給食センター長** 総務学事課給食センター長の重安です。よろしくお願いたします。

世間では原材料の値上げがされているが、給食費自体の値上げは検討されているのか。また、その上での支援となるのかについてお答えさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症の影響の長期化等により、学校給食に係る食材費が高騰する中にありまして、令和4年度の学校給食費については、児童生徒に栄養バランスのとれた安全安心でおいしい給食を提供するとともに、食育の充実を図っていくためには、値上げせざるを得ない状況と判断いたしまして、やむを得ず令和4年度の学校給食費を小学校は1食当たり10円の値上げをして270円、中学校は15円の値上げをして325円に改定して実施させていただいているところです。

このことから、年度当初から例年どおりの給食内容で給食を実施させていただいておりまして、現状ではこれ以上の値上げは必要ないというふうに考えております。

以上です。

○**児玉委員長** 末広委員。

○**末広委員** ありがとうございます。

クーポン、トラブルちよくちよくあるというお話だったんですけども、言葉が適切かどうか分からないんですけども、無視していい件数として、申し訳ございません。内容としてもそこまで難しいというか、自己責任の範囲の内容だと思うので、そこまで深く追求してもしょうがないとは思うんですけども、非常に高い利用率ということで、事業者数も増えてるということで非常に安心いたしました。

全体的な評判は非常によく、近所の方々もまたやってほしいという声も聞くので、非常にいいのかなと思ってます。その中でも、使いにくいってということもあって、他人に譲渡したりっていう声もちよくちよく聞きます。もしトラブル等そういう苦情がありましたら、できるだけ織り込んでいただくような形でやっていただければと思います。

給食費について、ちょっと値上げがしょうがないところもあるとは思うんですけども、この状況下でこの支援、非常に助かる家庭もたくさんあると思いますので、ぜひ援助していただければと思います。

ただ、これすみません、私の勉強不足だったら申し訳ないんですけども、既に補助を受

けている家庭には直接的なメリットがないのかなと思います。この物価高で比較的余裕のある家庭より、こういう困窮世帯のほうがさらに家計が苦しくなってくると思いますので、そちらのほうの家庭にも目を向けた事業を行ってほしいと思います。

以上となります。

○**児玉委員長** 答弁は要りますか。

○**末広委員** 要らないです、大丈夫です。

○**児玉委員長** 何かありますか、執行部のほう。いいですか。

他に質疑はありませんか。

小中委員。

○**小中委員** 私、学校給食についてちょっとお伺いさせていただきたいと思います。

通告では、なぜ補正じゃなくて当初予算とか本予算で手当てをしなかったのかというちょっと認識不足の通告だったんですが、昨日です、朝日新聞の第2社会面に食材値上げ、悩む学校給食、量を減らせず油は倍額、公費補助か保護者かという記事が出てまして、それを読んで私も考えさせられたということがありますので、通告と多少違いますので、答えられる範囲で答えていただければと思います。

この記事の肝っていうのは、給食は文部科学省の学校給食実施基準で摂取栄養価などが決められ、量を減らすことはできない。だから、そのいろいろな自治体で工夫をしている。もう1つは、学校給食法では、食材費は保護者負担とされ、値上げしなければ質が落ちてしまうというようなこともこの記事には書いてあります。この2つは結構大事なエレメントだと私は思っております。

お聞きしたいのは、だから先ほど令和4年度の値上げで質は落ちていないとおっしゃいましたので、それはそれでいいんですが、本当にこの原材料の高騰による影響っていうのが全くないのか。これがずっと続いた場合、現状の体制でもつのかどうかということです。

もう1つは、半額補助ということで来年の3月までということですが、私はやはり箱物より人を大事にする教育立市のまちを目指すという私の信条から言わせていただければ、来年度の一般会計当初予算でもこの半額補助というのを継続していただければと思います。とりあえず、要するにコロナ禍における負担を公費補助によって支援するという方法に対してはエールを送りたいと思います。回答よろしく申し上げます。

○**児玉委員長** 給食センター長。

○**重安総務学事課副参事兼給食センター長** 現状の給食費で質は落ちないかということだったかと思えます。

先ほども申し上げましたように、今年度は値上げをさせていただきましたので、現状その金額で実施できております。ただし、献立の工夫等はさせていただいておりますので、それについては先ほど委員がおっしゃられましたように、学校給食実施基準に基づいた献立を実施させていただいております。

今後、さらに物価高騰ということになりますと、給食の今の水準を保つためには値上げを考えなければいけないという可能性が出てくるかとは存じますが、今の段階では値上げせずにいけるというふうに判断しております。

以上です。

○**児玉委員長** 総務学事課長。

○**貞盛総務学事課長** 来年度以降も継続するというお話についてです。

現段階では、いつまでということは明言はできないのですが、来年度以降についても財源の確保について企画財政課と調整した上で、前向きに支援について検討していきたいというふうに考えています。

○**児玉委員長** 企画財政課長。

○**三井企画財政課** ただいま財源の確保というところがございましたので、その視点で企画財政課からも補足をさせていただきたいと思います。

今回の学校給食費の支援の財源は、地方創生事業基金を充てております。この基金残高は令和3年度末で約17億円でございます。学校給食費の半額支援の年間事業費は約5,000万円でございますので、この基金を活用すれば複数年、事業を継続するのに十分な基金残高であると考えております。しかしながら、この地方創生事業基金につきましても、今後老朽化した社会教育施設の改修であるとか小方まちづくり事業などの財源としても必要な基金でございます。

したがって、現在、防衛省の新再編交付金、空母艦載機交付金の活用も視野に入れながら、来年度以降の事業設計を教育委員会と一緒にやっているところでございますので、いつまでというところについてはいましばらくお時間をいただきたいというふうに思っております。

以上です。

○**児玉委員長** 小中委員。

○**小中委員** 学校給食の質を落とさないように、これからどうなるか分かりませんが、できるだけ努力して現状の水準を維持していただきたいとお願いいたします。

それと、もう1つはそれだけある程度財源があるのであれば、ぜひ来年も一般会計当初予算で給食の半額補助というのを継続していただけるようお願い申し上げます。

○**児玉委員長** 要望でいいですか。

○**小中委員** はい。

○**児玉委員長** 他に質疑はありませんか。

中川委員。

○**中川委員** 通告したことは大体ダブってますので、ちょっと付け加えて通告してなかったんですけど、今ちょっとコロナも蔓延して広がっている状態だと思うんですが、前回のクーポン券のときは中止されたんですが、今度状況が変わったら変化があるのかどうかちょっとその辺をお聞きします。

あと、今給食費のことで、準要保護児童生徒の人数をちょっとお聞きしたいです。先ほど末広委員からもありました給食費の免除の方ですね、ちょっとその人数をお願いします。給食費半額補助ということは、その人たちにとってあまり恩恵がないと思うんですが、例えば生活困窮者、あるいはそういう低所得者に対しての現金支給とかいうことを考えてな

いのかどうか。地方創生臨時交付金ですね、その辺もちょっとお願いします。よろしくお願ひします。

○**児玉委員長** 産業振興課長。

○**前田産業振興課長併任農業委員会事務局長** コロナの感染が拡大してる状況でクーポンをどうするのかということでございますけども、確かに現状新たな変異株等の出現もあり、全国的にも大竹市内でもちょっと増えつつあるという状況ですので、現在考えているのが8月末から11月末までの利用ということでございますけども、感染拡大が続けば事業の延期や中止は検討することになると思われます。

ただ、今回国からの交付金を活用しておりますので、これの利用の期限が今年度中に終わるということがありますので、延期等もいつまでも続けられるということにはならないため、ほかの支援なども検討を考えるというふうになるかもしれませんが、現状ではまだ8月末から11月での実施を見込んで各関係機関とやっているところでございます。

以上です。

○**児玉委員長** 総務学事課長。

○**貞盛総務学事課長** 準要保護児童生徒の人数についてですが、6月30日時点での準要保護の児童生徒数は児童が187人、生徒が111人です。このたびの支援については、現在、学校給食費を負担している保護者の経済的負担を軽減するためのものですので、現に給食費が免除となっている準要保護の児童生徒に対して、それに上乗せして何らかの手当てをするということは、本事業の趣旨には添わないというふうにございます。

以上です。

○**児玉委員長** 中川委員。

○**中川委員** 確かに難しいところだと思うんですけど、地方創生臨時交付金ってもっとあるんじゃないんですかね。もう全部使ってるということなんですか。分かりました。給食費の半額補助というのは大変いいことだと思います。困ってるというか物価高で大変支出が多い、子供の多い家庭というのは大変困ると思うんですけど、何らかのもう少し、もっと困ってる方がいらっしゃるんじゃないかと思うんで、その辺の補助とかも考えていただければと思いますので、よろしくお願ひします。ありがとうございます。

○**児玉委員長** 要望ですね。

○**中川委員** はい。

○**児玉委員長** 続いて、副委員長。

○**小田上委員** よろしくお願ひします。

まずは、通告したところからですね。中小企業経営安定支援事業、おおたけバルですかね、こちらについてこれまでの参加店舗の方でこうしてほしいとかっていう要望とか実際にバルを行った感想みたいなものの御紹介をいただけたらと思います。

あと、今のところ1枚700円を3枚つづりで購入して、実際には市が500円を補助しているから1枚当たり1,200円分の食事ができるっていう形だろうと思います。ただ、聞くところによるとこの500円の補助があつて1枚で1,200円ってなると、飲食店は特別なメニューを考えたり、あとはお好み焼きとかつてよく聞くんですけど、じゃあトッピング増やし

て飲物つけてとかってなると、なかなか金額に見合ったものの提供が難しいとかあると思うんですね。なので、そこでもうちょっと支援の方法、別の方法が考えられたりしてないのかなと思います。

その理由、今挙げた理由もありますけど、あとは最初のおおたけバルの趣旨からいくと、顧客誘引ということで飲食店がちょっと自分たちが身銭を切ってお客さんを呼び込んで大竹市を盛り上げようっていう形で始まったものだと思います。ただ、今補助があるっていうところで、このおおたけバルっていう名前が続く限り、そういうよかった時期を期待しながらお客さん行かれると思うんですね。それだと後々飲食店が今はいいけどつらくなるっていうことがあっちゃいけないと思うので、今はコロナ対策で特別なんだよというような支援の仕方もあるのかなと思ったんですけど、そのあたりどうお考えか教えてください。

あと、学校給食費ですね。ちょっと2回目以降にまだ聞きたいことあるんですが、まずは通告してるところですね。

先ほど同僚議員の質問の答弁の中で子育て支援として半額補助してますっていうのがありました。子育て支援っていう面で考えると保育所とか幼稚園とかも副食費、保育所の場合、副食費っていうのを4,000円くらい払ってると思います。ここの補助に子育て世帯というところの補助も必要なんじゃないかなと思うんですけど、物価の上がり方っていうのは一緒ですから。そのあたりどうお考えなのか。

あとは、ちょっと小学校と中学校、実際に半額と言ってますけど、10月から3月末まで幾らになるのか。保護者の方が引き落としされるお金、それを教えてください。

○**児玉委員長** 産業振興課長。

○**前田産業振興課長併任農業委員会事務局長** それでは、小田上委員の御質問にお答えいたします。

このおおたけバルに参加されている事業者のほうからは、コロナ禍での支援はありがたいとお声はいただいております。ただ、委員もおっしゃられたとおり、ふだんメニューにない特別メニューを用意するなどそういった負担もあるというお声も届いてはおります。

ほかの支援方法ということでございますけども、市は今回これまで事業者の費用負担を軽減してきましたけども、ほかの支援方法と例えば次回使える食事券やキャンペーンでの割引とか、以前市でも行いましたがキャッシュレスのポイント還元等などが考えられると思われまして。ただ、これまで市が直接支援をしてきたのもあるんですけども、事業自体が商工会議所と飲食事業者が連携しております事業ですので、そういった飲食事業者の声をよく聞いている大竹商工会議所と連携された取り組みがまずあって、市のほうも支援をしていきたいと考えておりますので、ただ、これがいいというものはないんですけども、まずはそこからやっていきたいと思っております。

以上です。

○**児玉委員長** はいどうぞ。

○**井上福祉課長** 福祉課長、井上です。よろしく申し上げます。

質問にお答えします。保育所の給食費は3歳未満は保育料に含まれています。3歳以上

は保育料が無償化されていますので、公立・私立ともに副食費として先ほど委員がおっしゃいました月額4,000円程度を保護者から別途徴収しております。主食費は公立では月額500円徴収していますが、私立では市と同様のところもありますが、御飯をお子さんに毎日持参していただいているところもあります。その他、毎月徴収する費用としては公立・私立ともおおむね保護者会費として200円程度となっております。

これに対しまして、公立小中学校は義務教育ですので授業料はかかりませんが、給食費以外に修学旅行費とか社会見学費、学用品費、実習材料費、クラブ活動などの教科外活動費、そのほか卒業アルバム代などが徴収されているかと思います。これらに加えて塾などの習い事の費用のかかるお子さんも保育所児童よりは多いでしょうから、やはり全体として保護者の金銭的負担が大きく、それを軽減させる意味で学校給食費を半額にするという観点で考えれば、保育所の保護者とは状況が異なるのではないかと考えております。

ですので、保育所の給食費の支援について、このたびのタイミングで学校給食と歩調を合わせるということはないという判断をさせていただきました。ただし、今後、予想を大幅に上回る物価高騰が進み、保育所の給食費を値上げしなければ適切な給食が提供できないような事態が起こった場合には、それを防ぐため補正予算措置による民間保育所などへの支援をする可能性も十分あるものと考えています。また、公立保育所につきましても同様の事態が見込まれる場合については、補正予算措置などによる賄い材料費の増額を検討したいと思います。

以上です。

○**児玉委員長** 給食センター長。

○**重安総務学事課副参事兼給食センター長** それでは、10月1日から3月末まで保護者の方々に御負担いただく金額についてお答えさせていただきます。

学校や学年によっても違ってくるとは思いますが、小学校で大体平均106食ぐらいになるかと思うので1万4,310円、中学校で104食程度になると思われますので1万6,952円御負担いただくようになると考えております。

以上です。

○**児玉委員長** 産業振興課長。

○**前田産業振興課長併任農業委員会事務局長** すみません、1点補足をさせていただきます。

委員も先ほどちょっと触れましたけども、今回、おおたけバルに市が支援してるのはコロナ禍での支援ということでございますので、一応おおたけバルの事業が続くかどうかはちょっと分かりませんが、そういったことで今回までは市の補助も入っているということでございます。

以上です。

○**児玉委員長** 副委員長。

○**小田上委員** ありがとうございます。

おおたけバルのほうは終わった後ですね、この名称で続いたときに市の補助がないとなったときに、給食費でも質の問題が出てますけど、同じ金額で提供できる質が変わるっていうと利用されている方がっかりされるんだろうと思います。なので、例えばですけど

500円で買って1,000円分の食事券になりますとかそういうもののほうが飲食店側も通常のメニューで提供できて楽だったりするのかなとかいろいろ思ったりはしますんで、500円出して1,000分買って500円つづりだとお好み焼き屋さんでも1枚使ってちょっと現金でとかやりやすいなと思ったりはしますんで、ある意味プレミアム付商品券ですけど、そういうところもあるのかなとは思いました。

ただ、しっかりコロナの中で営業を続けてらっしゃる飲食店の応援ができたらと思いますので、商工会議所としっかりどういう形が飲食店がいいのかっていう連携をとりながら、今後進めていただけたらと思います。おたけバルのほうは以上で大丈夫です。

給食費のほうなんですけど、まず、保育所のほうゼロから3歳児って収入にもよりますが、収入が少なくてもそこそか月々かかっているかなっていうイメージがあります。自分が議員になる前はそんなに収入なかったんで、それなりとはいえゼロから3歳児は高かったイメージがあります。何でしょうね、ゼロから3歳児だと預ける延長保育のお金もかかりますし、仕事をすれば、それができないのであれば時短で帰ってくると、家庭の収入は下がると。小学校の場合は放課後児童クラブっていうのがあったり、何とか自分で帰ってこれるというのはありますけど、絶対に迎えに行かないといけないというふうになるので、じゃあ経済的な負担がその小さい子供がいる世帯は軽いですよっていうのが本当なのかどうかっていうのはちょっと分からないですね。精神的な負担を含めて多分小さい子もそれなりに親御さん負担あると思うので、今後考えていただきたいというふうには思います。

ただ、この学校給食ですね、フェイスブックで上げていただいて子供との会話すごく弾みます。今日これ食べたんだね、あれ食べたんだねっていう話をして、じゃあこういうものだったから今日の夕飯はこれにしようとかっていう考えるきっかけにもなりますし、非常にありがたい。

この質を安定していただきたいと思うんですが、先ほどありました今後の財源って空母艦載機の財源でっていう話がちょっと出てたんですけど、平成22年の安心安全対策特別委員会で議会提案で再編交付金を使って無償化したらどうだっていう提案をしていると思います。別の議事録を調べたくって見てたとき偶然見つけたんですけど、そのときに市長が常々言われてますが、恒久的にある財源でないものでこういうソフト面の補助っていうのはなかなかしづらいんじゃないかというふうに言われてこられてた中での来年度予算に、それも検討に値するという答弁だったと思うんですが、ちょっと方針が変わったのかなと。半額が駄目とか言ってるわけじゃなくて、どうせやるなら全額無償化したっていいんじゃないかなとは思ってますけど、そこの方針が変わったように見えるんですけど、どうお考えでしょうか。

○児玉委員長 副市長。

○太田副市長 方針は変わっておるというものではございませんが、先ほど再編交付金、基地艦載機交付金ですか、これについても給食費を無償化するのであれば時限立法でございます。15年間の時限立法で、もしやるならばですよ、時限立法で考えております。2分の1、無償化それは平成22年議会で決議されとるものがございますので、それを安易に無視するようなものでもございませんし、今後、市といたしましては無償化、2分の1、あ

るいは艦載機交付金の運用、今から条例改正も含めて本年度中に一応一定の方向性は出していきたいと考えています。

○児玉委員長 副委員長。

○小田上委員 ありがとうございます。

当時の答弁見ると、年間やろうと思うと約1億円かかるという答弁でした。今回半額補助で約5,000万円っていうところ、ほぼ同じ感じなのかなとは思いますが。1回半額にしてしまうと、これ半額が終わると保護者の方は特に元に戻ったという感覚じゃなくて値上がりしたっていう感覚になると思います。安易に半額にしてるんじゃないと信じていますけど、これはいろいろ財源も含めて今後も継続的に可能であるというところをしっかりと考えていただいて、どういう取り組みをしていくのかっていうところはしっかり議会にも説明をいただけたらなと思いますので、反対するわけではありませんが、ちょっと以前の十何年前ですけど、変わったのかなというイメージはもちつつ、この半額はぜひやってほしいなというところで終わります。

○児玉委員長 副市長。

○太田副市長 考え方は基本的には変わっておりません。新たな交付金制度を現時点で大竹市民に波及をするためにはどうしたらいいかをまず考えます。そして、先ほど時限立法という話をさせていただいたんですが、もし15年続けたときに、そのときにおける行政の人間、大竹市民、そして、議会の皆様方がどう考えるか。新たな財政の財源を見つけてくるか。ここ数年、市長先頭に立って私たちは財源確保のために懸命に働いてまいりました。それを今から15年間も、これからもしですよ、もし無料化するようなことになれば、この15年間時限立法で提案したいとも考えておりますが、した場合は今からの15年間は新たな財源を探すのが私たちの仕事であり、議員の皆様方の仕事だと考えております。

以上です。

○児玉委員長 通告を受けた質疑は以上となります。

他に質疑の通告は受けておりませんが、質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○児玉委員長 他に質疑なしと認めます。

以上で、質疑を終結いたします。

続きまして、討論に入ります。

本件に関する討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○児玉委員長 討論なしと認めます。

以上で、討論を終結いたします。

これより、本件を採決いたします。

本件は原案のとおり可決すべきものと決して御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○児玉委員長 御異議なしと認めます。

よって、本件は原案のとおり可決すべきものと決しました。

(4.7.14)

以上で、本日の議事日程は全て終了いたしましたので、総務文教委員会を閉会いたします。御苦労さまでした。

11時17分 閉会